



武田正樹 議員

水田の有効利用のため 新作物の検討を

問

水田の有効利用のための取り組みについて聞く。

(1) 20年度の水稻の作付面積と生産調整による麦、大豆等の作付面積

(2) 市は減反政策にかなり協力している。その反面、食料自給率は日本全国でかなり不足している部分があると思う。

新作物を検討する県水田活用新作物研究会【**く**】が発足し、栽培試験を行っているが聞いたが、どんな試験なのか。

く 地球温暖化対策、遊休農地の有効活用等を目的として県、JA愛知中央会、JAあいち経済連が組織、非食用加工米を原料とするバイオエタノール製造試験、飼料米の2期作実験等を実施している。19年設立。

(3) 19年度の国の統計では、水田経営農家の所得は全国平均37万円しかない。

岐阜県でよく作られている晩成種米ハツシモは、収穫後に麦の作付けが可能と考える。食料自給率アップと少しでも所得が上がることを考えるがどうか。

県研究会が燃料米 や2期作を研究中

答 農政課長

(1) 市水田農業構造改革による(水稻の)作付面積は109,536a、作付面積率は95・35%で目標に達している。

また生産調整実施面積は52,788a(麦大豆が31,959a)で、達成率は101・6%である。

(2) 同研究会が、19年度に市(鍋田町地内)で多収量米品種のハバタキ、西尾市

でタカナリのバイオエタノール原料米の栽培試験を実施した。コシヒカリと比較して約2割の増収があったと聞いている。

また県農業総合試験場でもエタノール製造に対し、米の調査や生産技術開発等を行っている。

(同研究会は)20年には飼料用品種米として、市(鍋田町地内)では

夢あおば、西尾市ではホシアオバの栽培試験と夢あおばによる2期作の栽培試験を行っている。

市においてもこの結果を見定め、生産調整対策、耕作放棄地の解消のため、

今後JA等と連携を図りながら検討していきたい。

(3) 主食用米のハツシモはJA等の出荷が現在

されていない。一つの案として生産コストを含め検討させてほしい。

農地の有効活用として二毛作を考えると、冬場は作物の種類と量は少なくなるが、農家の経営安定を目的とした品種を考え、生産が上がるものを検討していきたい。



▶バイオエタノールの原料となる
米の収穫(鍋田町地内)